

第 6 号

朋友

1986 HÖYÜ



I科8期生
齊藤美佐江

佼成看護専門学校同窓会

スーダンの難民救済医療を終えて

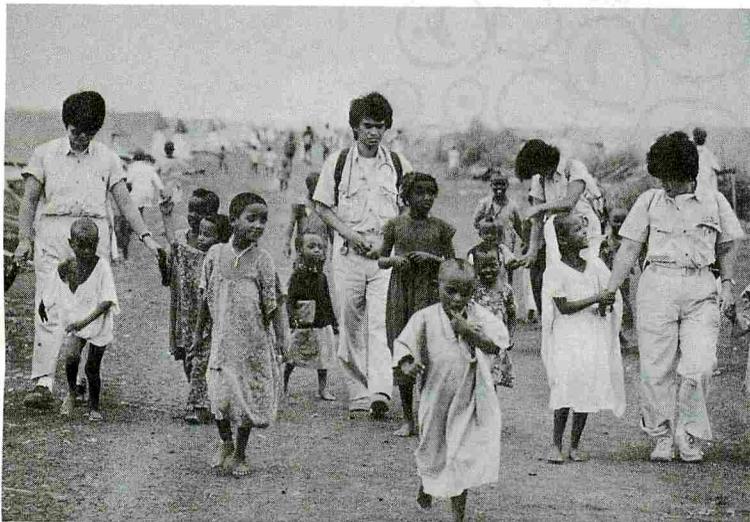


(首都ハルツームの東南250キロ地点にあるファウⅢ キャンプ)

昭和六十年五月二十二日、立正佼成会スーダン派遣医療団が日本を出発しました。この一行には、内科岩田医師、山下方子、小柳昌代、池田友子看護婦が参加していました。同窓会の仲間が、世界平和への道に加わっていますので、朋友六号の発行にあたり意見や感想を寄せていただきました。

Q、医療活動を行った場所は？

山下Ⅱアフリカ大陸で最大の面積(二五〇一
万平方キロ・日本の六・六倍)をもつスーダ
ン・ファウという所でファウⅢというキャン
プです。一月頃は、飢餓状態にあり、緊急医
療体制がひかれていましたが、私達が行った
六月は、こうした状況を脱した頃でした。



Q、医療活動が波に乗るまで大変だったそうですが、活動の内容は？

山下〓結核患者の看護を担当しました。結核患者の治療と疑いのある人の掌握、検査そして経過観察が主な仕事です。検査といっても施設が不充分で塗末検査、尿沈査、血液算定血沈、蛭虫検査等しかできないのです。

病気としては、肺、腎、骨の結核がありました。入院設備がないので、重症患者は、フリーディングセンターへ送ります。

治療だけでなく、予防も大切なので、栄養面での指導や、衛生教育にも力を入れました。

そして私達のもう一つの仕事は、ドレツサー（看護婦のアシスタント役）に対しての指導です。私達が帰った後でも、医療活動が続けられるようにしたいと四人で目標を立てていましたので。

小柳〓私の担当は、公衆衛生でした。キャンプを六ゾーン（区画）に分け、毎日、ワーカ―たちと受け持ちのゾーンを歩き、テント内外の衛生状態をチェックし、適切な指示をします。難民の人達は、毎朝手や顔を洗う習慣がないので、「マイト・サモナ・ハツサブ」（水と石けんで洗いなさい）と現地の言葉で伝えて回りました。

コレラ、赤痢、腸チフスの予防に努め、栄

養状態が悪いのでビタミンC・Aを配布したり、健診や、衛生教育をして回りました。

池田〓妊婦の管理とお産、産後の母親と新生児の健康管理が私の役目でした。健康診断、家庭（テント）訪問、栄養状態が悪ければ病院で処置を受けさせたり、フリーディングセンターに送ったりしました。

十一月ごろになると、子供の栄養状態も行き届くようになりました。

ドレツサーへの指導として、お産に必要な物品を絵や写真にし、誰が見てもわかるようまとめました。これは、皆に喜んでもらえてうれしかったです。



Q、全てが楽しい思い出になっているそうですが、その中で特に印象に残っていることを、挙げて下さい。

山下〓いろいろな人とのふれあいです。コレラの病院に数日間お手伝いに行った時、毛布のモニターをとりに来ていた方も同行してもらいました。言葉も通じず、どのように患者と接してよいか不安の時に「100%の日本語より5%の英語だよ」と言って、励まし、暖かく見守ってくれました。そのおかげで、勇気をもって行動することができました。とてもうれしかったです。

小柳〓キャンプを回っている時に、お茶をこちそうしてくれるのです。難民の人たちの収入は、ほとんどなく、食糧は配給です。その中で、私にお茶を出すために、箱の奥の方から紙幣を取りだし子供に砂糖を買いに走らせてくれ、お砂糖入りの紅茶をこちそうしてくれるのです。自分達のなけなしのお金なのにとその気持がうれしくて、何にもかえがたいものでした。自分が苦しくても、相手のために尽すことができるなんてなかなかできないのに、それを気にせず、仲間として受け入れてくれるのですから。

池田〓どんなことでも、自分に気持があれば



必ず通じるということが一番印象に残りました。日本から送られてきた毛布や、カロリーメイト等の食糧を見て、送ってきた人達の気が伝わってきました。

難民救済医療に参加しなくても、その立場でも、できるといふことです。

Q、キャンプのまわりには、毒ヘビやサソリがいるとか聞きましたが、身の危険は？

山下以外に出る時は、靴をはき、長ズボン姿です。トイレのワラぶき屋根や回りの壁からヘビやサソリがでてくるので、必ず棒をもつて入り、安全を確認して入りました。身を守るためには、見つけたら退治するという精神が必要です。途中からトタン屋根にしてみましたので危険ではなくなりましたけど。

砂嵐や、スコールに出会いましたが、それほど困らず、自然の姿のまま受け入れることができました。雨期となるとスコールがきて一面水びたしになり、真茶色の何もない大地が緑の草原に変わるので、自然の力はすごいですね。

熱い一日が終り、夕日が山に沈む一時は、ボーッと立ちつくしてしまうほどです。そして、真黒な空に満天の星、日本と違ってビルなどないので、それは、それは、見事なものでした。



いろいろありがとうございました。

出発前に病院七階講堂で壮行会を行った時、「私達が現地にいる時だけ医療が行なわれ、帰ってしまったら何も残らなかったではなく、伝えられることは伝え、残された人達で医療が続けられるようにしていきたい」と抱負を語ってくれたことがとても印象的でした。そして、その役割を果たして帰って来た姿は、一段とたくましさを感じました。

15期生の紹介



同窓会の皆様、初めまして、私達15期生は長いようで短かった佼成看護専門学校を無事卒業し、今年から皆様のお仲間入りができ、ほんとうに嬉しく思っています。

15期生は、各授業の先生、担任の先生方から、消極的で反応のない学年だと3年間いわれ続け、心配していただきましたが、皆それぞれ、表に出さない個性があり、一体化するとより強くなるという感じの学年でした。

約半数が他の病院に就職しましたが、「他にやってはじめて佼成病院の良さがわかった」と、皆が知っているのをよく耳にします。

それぞれ、佼成看護専門学校、病院で学んだ看護を忘れずに、これからも勉強して行きたいと思っています。

まだまだ未熟な私達ですが、どうぞよろしくお願ひします。

第15回記念歌

作詞 阿部真理子
作曲 大葉 孝子
(昭和58年)

一、ひとつの命を守るため

すてきな明日がくるように
みんな手をとりみつめ合い
看とりの道を歩もうよ

二、ひとつの愛を守るため

やさしい夕日を見るために
みんな肩くみ一歩づつ
看とりの道を歩もうよ



懐しのあの先生はどうしている？

春藤幸江先生



学校も今年は18期生を迎えました。夏は40度、冬は教室の隅の方に雪が積った、その上車が通るとマイクも聞こえなくなった懐かしい教室も今は近代的な治療センターが取って代りました。前夜祭に仮装舞踏会をしたり、II科の人達が授業をした、歩くとガタガタいった木造教室も今はその音と共に消えました。そして入江さんのトランペットに送られ、パトカー先導に高谷さんの校旗の後を全学生、教職員がしずしずと引越してきた今の校舎も16年になります。応募者が少ないと真剣に対策を考えてくれた中野さん、阿部さん、小関さん達有難う、昨年、今年は遂に400名を突破しました。本当に感無量です。今日この原稿用紙を頂きしみじみと歴史の重みを感じます。

佼成病院で婦長、主任、実習指導教師、教育委員などで仕事に、後輩教育に多くの方々が尽力されています。お名前をあげるのには許されたページが少なすぎます。もう9期生が看護教師の講習に行っています。学校にも1期生の今西さん(旧姓日浦さん)が頑張っています。皆さんが力を尽すので佼成病院の看護婦さんはやさしいと評価を頂いています。

応募者が45名になった事もよい評価を頂くことも考えるに卒業生一人一人の力に他なりません。佼成で、それぞれの地域で立派な働きをしているからこそ社会が認めてくれたのです。社会からの信用を得るのは3年や5年では得られません。皆がそれぞれの立場で責任を果していればこそです。患者さんにとって何が必要な援助か、どうする事が大切なのかを常に考え続けてゆける校風があつてのことですね。今井(旧姓松井)先生も頑張っています。17年間を2枚800字ではむつきし過ぎます。稀には学校を思い出しお力添え下さい。離れる程懐かしさがひとしおです。お手紙を下さい。お元気で御活躍下さい。待、再会

ご存知でしたか

浜田みどり

誠に古いニュースとなり恐縮ですが、昨年の5月15日に看護教育100周年記念式が国立代々木競技場で開催されました。

改めて述べるまでもなく、明治18年に現在の慈恵看護専門学校の前身である有志共立東京病院看護婦教育所が開設され、日本の看護教育が始められてより、100年ということですが、

この席上、長年看護教育に携わった諸先生方へ厚生大臣より表彰状が贈られました。私達の恩師である渡辺モトエ先生と亀が森清子先生が、表彰されました。

渡辺先生も開設時より、昭和53年まで顧問をされていらっしゃいました。

亀が森先生は、当校の開設時より昭和49年まで教務部長をいらっしゃいました。両先生に拍手喝采をお送りすると共に、いつまでもお元気で御活躍下さいますよう、お祈りいたします。

今、学校で④

八重桜

11月になると球技大会が行なわれず。卓球からはじまり、バレーボール、バスケットボールと、球の種類はかわってゆきましたが、学生達のファイトはかわりません。バレーボールについては、アタックがすばらしく、ネット近くで守備をする時は、こわくて足がすくんだものでした。目をつぶってしまいたくなるようなスピードボールでも最近では、すべりこみでひろい、ラリーが続けられ、まるで、世界選手権の対戦を見るようです。最後に学生と先生方の試合が行なわれ体力と行動力にはかなわないようですが、根源性では負けないと、はりきっています。場所は、看護学校から佼成男子校の体育館で行なわれ、学生達の企画、準備、実施、評価と体験研修されていることは、変わりありません。

今年11月16日は、バレーボールとソフトボール、雨が降ったらバレーボールとバスケットボールを行ないます。

昭和60年度

■同窓会活動報告

同窓会活動もやっと軌道に乗り左記のよう
に活動しております。

4月 入学式

会長あいさつ 花束贈呈

5月 定例役員会(各クラス役員)

第3・第4土曜日 2時

看護学校会議室

1.顔合せ 新役員紹介

2.予算計画

3.同窓会朋友計画

4.その他年度により必要事項

10月 定例役員会 各クラス役員

1.会報配布及び郵送

2.郵便振替払書の製作及び郵送

3.その他

11月 戴帽式

役員あいさつ 花束贈呈

3月 卒業式

役員あいさつ 花束贈呈

PRコーナー

「病と闘う心」

―看護者から看護者へのメッセージ―

今井俊子著書

メジカルフレンド社 1400円

■学校事務局より

証明書が必要なときは、証明書交付申請書(用紙は事務室に備付)を提出していただくことになっていますが、遠隔地からの申し込みの場合は、返信用封筒に切手の貼付、住所氏名、郵便番号を記入同封し、必要事項を手に紙に書いてお申し込み下さい。なお成績証明書については、提出先へ直送することになっておりますので、返信用封筒には、提出先の所在地、名称などをお書き下さい。手数料はつぎの通りです。

卒業証明書 一通につき 二〇〇円

成績証明書 一通につき 五〇〇円

送り先〒166東京都杉並区和田一ノ三ノ十四

佼成看護専門学校事務係

電話(03)三八四一六一六一

尚、住所変更、改姓された方は、必ず連絡下さい。郵便でも電話でも結構です。郵便物が時々届き、転送するのに困っております。

募集

★同窓会の名称を募集しています。

わかりやすく、親しみのもてる名称にしたいと思しますので、アイデアを送って下さい。

同窓会会計報告

会費納入（郵便振替口座）も皆様の御協力の御陰をもちまして、だいぶ増え、同窓会の運営も軌道に乗ってまいりました。これで、やっと同窓会として一人立ちし、足並揃えて活動できるようになりました。

しかし、残念なことに滞納されている方の数も少なくありません。どうか今後の本会の発展の為に御協力をお願いします。

つきましては今回も「払込通知票」を同封致しましたので、そこに書かれている金額をお近くの郵便局に御支払い下さる様、お願い致します。また、住所変更・改姓等がございましたら、通信欄に御記入下さるよう、重ねてお願い致します。

昭和60年度決算収支報告 (S59.4~S60.3)

収入の部	支出の部
前年度繰越金 1,452,481	経費 1,396,778
同窓会費 834,030	通信費 208,090
14期生 96,000	印刷代 119,538
17期生 98,000	慶弔見舞金 29,000
O・B 640,030	委員会運営費 4,960
同窓会総会費(5,000×66名)	同窓会事務処理バイト料
330,000	10,500
同窓会総会祝金 70,000	同窓会室ついたて 23,000
預金利息 5,428	御礼、御歳暮 9,370
	同窓会総会費 992,320
	次期繰越金 1,295,161
	現金 226,635
	銀行 725,176
	郵便局 343,350
合計 2,691,939	合計 2,691,939

役員名簿

氏名	氏名
会長 (I-1) 浜田みどり(山下)	I科 細谷恵美子(神田) 今西潤子(日浦)
副会長 (I-1) 鳥海優子(小野)	2期生 篠原夏子(小沢) 荻原実千代(川上)
書記 (I-8) 斉藤悦子(小長谷)	3期生 鶴園真理子 斉藤陽子
(I-14) 牧野学美	4期生 遠藤裕子(南野) 塚田陽子(須藤)
会 計 (I-2) 荻原実千代(川上)	5期生 鳥光令子(荒川) 有路江津子(庭野)
(I-4) 遠藤裕子(南野)	6期生 山田郁代(松岡) 関昌子
会計監査 (II-1) 菱沼義恵	7期生 小島啓子 広門三千子(高倉)
(I-5) 島野佳澄	8期生 石藤悦子(小長谷) 坂口隆世
クラス役員	9期生 石田由美(五十嵐) 滝沢初江
	10期生 久保喜代美(一丸) 杉山恵美子(吉村)
	11期生 石井真由美 堀越佳子
	12期生 小尾貴美子 池下靖子
	13期生 伊崎久子 浜野圭子
	14期生 牧野学美 中村まゆみ
	15期生 近藤貴美 河合貴美代

※クラス役員はクラス毎に決めて報告してもらっています。

氏名	氏名
1期生 小見道子(近藤) 中山絹枝(山本)	II科 氏名(旧姓)
2期生 矢部美智子	
3期生 香水好江 大塚早智子(遠藤)	
4期生 柳沼みち子 鈴木加代子(西川)	
5期生 村松美邦(坂倉)	
6期生 稲垣由美子(鷲尾)	
7期生 大石恵美 大矢和子	
8期生 朝妻晴美 山口悦子	
9期生 井上幸江 大森ケイ子	
10期生 相田千秋 新井里枝子	

編集後記

今年七月下旬まで梅雨明けが足踏みし、夏休みに入った子供達もちよっぴり拍子抜けした感じでした。同窓会の皆様は、お元気で活躍のことと存じます。会員の皆様のご協力によりまして「朋友6号」も発行にいたしました。役員一同これからも徐々に紙面の充実を図り、ますます、同窓会員の親睦を深めてまいりたいと思っておりますので、今後共、多くのご意見やご批判を多数お寄せ戴きたいと思っております。ご多忙のところ、心良く原稿の執筆をお引き受け下さいました恩師の先生方をはじめ、皆様に心より感謝致します。

浜田みどり

〈同窓会事務局〉

〒166 東京都杉並区和田一―三―十四
 校成看護専門学校同窓会事務局